

ゆうのゆう後援会だより

No. 27
2020.3

スタッフに求められる“力”
「支援者の学び、教育について」

ビー玉アート
「私たちのアート活動の現状と課題と目標と」

News & Topics

・新「デーセンター夢飛行」について



新「デーセンター夢飛行」について



◆ 1 階は利用者さんスペース 2 階は事務局、スタッフのロッカールームです

新夢飛行の誕生です

後援会だよりの前 26 号で台風 21 号による大きな被害をお知らせした「デーセンター夢飛行」について、新築・移転計画がスタートしました。前号の編集をする間にも計画がどんどんと進み、あわてて 27 号を作成してお知らせする次第です。

全体が崩落した屋根は葺き替え工事のおかげで雨漏りも止まり、建物の使用に問題はありますが、老朽化が著しいため、オーナーとの相談の結果、新築・移転することになりました。複数の住宅メーカーと相談。マンション、ホテル、保育園などとの合築などさまざまなアイデアを検討しましたが、活動の自由さを維持するため当法人単体利用での新築に決定しました。

設計は、大阪で活躍中の新進建築家・三野貞佳氏に依頼。これまで以上に地域との交流を促進するためのデザイン、利用者さんの快適さ等、工夫を凝らしています。建築場所は隣地の駐車場に。引っ越しはスムーズです。

今春に竣工、移転の予定。皆、わくわくしながら完成を待っています。



強風にあおられ屋根が崩落しました



一階 平面図



二階 平面図



◆ 天井走行の移動リフトを設置します

① 地域と一体感を感じられるデザイン

- ▶ 施設入り口にショップ・カフェを設け、地域の方々が気軽に施設内に足を踏み入れられるデザインとすることで、地域と利用者さんとの自然な交流を企画します。
- ▶ 利用者さんとスタッフとの共同作業「ビー玉アート」を取り入れた内装は、大きいガラス戸から道行く方々の視線をひきつけ、施設内と外部地域との一体感を醸成します。

② 快適さ

- ▶ 車いすを収容できるスペースの確保
これまでは車いすを外に並べていたため、夏の暑い陽射しや雨の日には、カバーが大変。その影響をまともに受けていましたが、施設内に収容スペースを設けることで解決します。
- ▶ 私たちの施設として初めて自動ドアを設置します。車いすを押しながら建物にスムーズに入れます。

③ 安全への考慮

- ▶ 玄関から浴室まですべての場所に移動できる天井走行リフトを設置します。利用者さんの移動の際のリスク軽減と安全の確保、スタッフの腰痛予防に配慮しました。
- ▶ 毎日の入浴を快適に。利用者さんの介助に十分な浴室、脱衣室スペースを確保しました。



現在の建物のオーナーが施主となつての新築です。リフトや空調・照明など法人が整備する備品に対し、後援会から 800 万円を支援します。大きな金額の支援となります。会員皆さまのご協力に感謝いたします。

ホームページ <http://www.yourwing.org> のブログでイメージ動画をアップしています。ぜひご覧ください。
スマートフォンの方は QR コードをスキャンしてください。



2 階建て、のべ約 430㎡（1 階約 300㎡ 2 階約 130㎡）
住所：大阪市西成区岸里東 1-5-3
（旧建物は 1-5-25）
設計：アリアナ建築設計事務所
一級建築士 三野 貞佳
施工会社：ミサワホーム

支援者の学び、教育について

田代 健信
ゆうのゆうスタッフ

重 症心身障害者の支援に当たってスタッフに求められる「力」とは何でしょうか？例えば ①「ケア」そのものを本人との「コミュニケーションツール」として捉える力。言葉での意思疎通、表情による感情の表出が困難な利用者さんに対して、食事介助やおむつ交換、吸引や注入… 一つ一つのケアを黙ったままおこなうスタッフはいません。そこには必ず声掛けがあり、それに対する利用者さんの「応答」があります。「応答」の仕方は十人十色。全身の筋緊張で応える人、呼吸の深い浅い・脈拍の速い遅い・体温の高い低いで応える人、中には人工呼吸器のアラームで返事をする方も…。利用者さんからの「言葉や表情にならない応答」を「ケア」自体を通してキャッチできる感受性。そのアンテナを張る力がスタッフには求められると考えます。

そ れから② 利用者さんの「社会参加」を「社会変化」に結びつける力。利用者さんの社会参加は、ご本人の生活の質を向上させることはもちろん、社会を変える力にも成り得ると考えます。「社会参加」と言っても決して大仰なものではありません。リサイクルショップで接客をする、公共交通機関を利用して外出や旅行をする、コンビニで買い物をする、お洒落なカフェで食事をする、アイドルのライブに参戦する、カリスマ美容師にカットしてもらう… 家族や福祉・医療関係者ではない多種多様な人たちとも顔を合わせることで、自らの姿を見せること、それも「参加」です。利用者さんがこうした「参加」を積み重ねることで、社会の様々な分野の人たちが重症心身障害者の存在を知り、同じ社会（地域）のメンバーとして受け入れるために必要な対応や対策を講じる…それが、「誰もが住みやすい社会」への確かな「一歩」になるのではないのでしょうか。この「一歩」を「仲介する力」もまた、私たちスタッフに求められるものだと思います。

- ◆ では、①②のような「力」を、スタッフはどうやって身に付けるのでしょうか？
それは「研修・教育」によって習得可能なのでしょうか？
あるいは「経験」によって自然に培われるのを待つしかないのでしょうか？



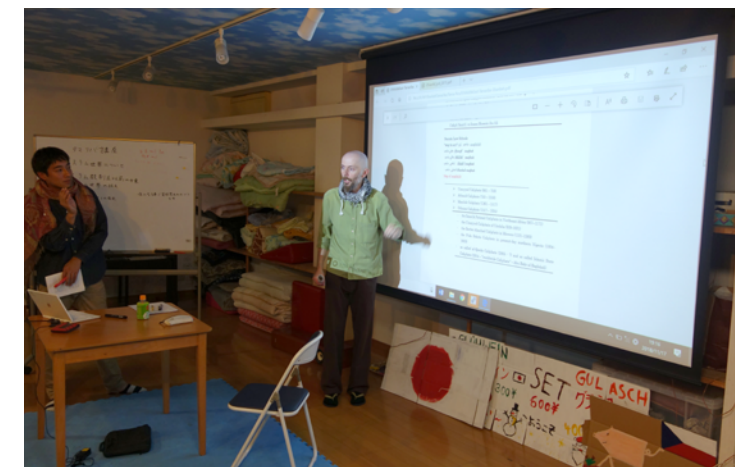
ファシリテーションボールの講座

現 在法人として採用している研修・教育方法の柱は二つ。一つは入職1～4年目のスタッフを対象に段階的な「習得（到達）目標」を設定した上でOJT（現場での直接指導）をおこなうこと。とりわけ1年目のスタッフに対しては、個別の指導・育成スタッフ（メンター）を配置し、定期的な面談を設けるなどして、重点的にフォローしています。二つ目は研修に「ポイント制」を導入し、スタッフの主体的な自己研鑽を促すこと。外部の研修会やセミナーへの参加のほか、インターネットを介して講義を視聴するweb研修の受講などもポイント付与の対象とし、研修内容や参加形態に応じて獲得できるポイントに差を設けています。「いかにしてポイントを貯めるか」というゲーム的な要素も一部取り入れることによって、スタッフの研修に対する積極性を引き出すことが狙いです。

し かしながら、こうした現在の研修・教育の「中身」は、あくまでも福祉や介護に関する一般的な知識、あるいは「現場業務の一人立ち」に最低限必要なスキルの範囲に留まっています。先に①②で挙げたような「重症心身障害者支援ならではの」「必要な力」をどのように培うのかについては、まだ踏み込めていないのが現状です。

さ らにここ数年来、いわゆる正規（常勤）スタッフの働き方を再検討する中で、短時間勤務のアルバイト（非常勤）スタッフを増員しています。常勤と非常勤とでは、業務内容はもとより、求められる役割や担ってもらう責任の大きさも異なります。そのため、非常勤スタッフに対する研修や教育の仕組み整備が早急に必要ですが、そもそも「短時間」勤務であるため、指導・育成に充てることのできる時間もまた限られているといった問題が付きまといます。

こ のように課題は山積みですが、常勤スタッフは重症心身障害者支援の本質を自問自答し続けることのできる「プロ」として、非常勤スタッフは現場の「即戦力」として、個々の特性や魅力も発揮しつつ“ONE TEAM”で利用者支援に取り組むことのできる組織を目指したいと思います。



外国人スタッフによる歴史講座



医師による医学研修

私たちのアート活動の現状と課題と目標と

納富 太郎
ゆうのゆうスタッフ

◆“ビー玉アート”という言葉聞いてどんなものをイメージされるでしょうか？

ビー玉を使ったオブジェ、ビー玉自体に装飾を施したもの等を想像される方もいらっしゃるかもしれませんが、悪しからずそうではありません。ごくごく簡潔に説明するとすれば、絵の具をつけたビー玉の軌跡を重ねて描かれる絵画です。後援会員の皆さんの誕生日月と入会月に送らせて頂いているポストカードは正にビー玉アートを使ったものです。今回はその“ビー玉アート”について改めてご紹介します。

◆1日1時間の日中活動の時間を使って制作しています。

1m四方の紙を特製の箱に入れ、そこにテーマに沿って配合した色の絵具をつけたビー玉を投入し、箱ごと傾けて描いています。参加するメンバーの顔ぶれや、各々の体調や気分、介助するスタッフとの関係性等によって、軌跡は揺らぎ、作品は繊細に変化します。こうして、その場その時にしか描けない唯一無二の作品が生まれていきます。

「重い障害がある方達が、一体どうやって作っているの？」という疑問が湧くかと思います。勿論利用者さんだけで描いているわけではありません。介助が必要な部分ではスタッフも参加しています。スタッフも参加していますが、決してビー玉の動きをコントロールしているわけではありません。例えば、重い障害のある人と一緒に何か具象的なものを描くとすれば、実際に手を引く介助者の意図が強く出てしまいます。それとは異なり、抽象的なビー玉アートにおいては利用者さんの意図、スタッフの意図が混ざり合っています。この介助者の存在も排除せずに



ビー玉アート



制作風景

内包したアートがビー玉アートです。利用者さんとスタッフの合作であり、団体戦のアートとも言えるのかもしれませんが。

◆こうしたビー玉アートは、ポストカードやメモ帳など様々なグッズにもなっています。

最近では特に絵画リース事業に力を入れています。現在は歯科医院などを中心にご利用頂いています。三か月に一度の定期的な絵画の掛け替えには利用者さんと一緒に伺っています。売り切りの形態とは異なり、在庫が無くなる事もなく、お客さんと継続的な関係を持てる事、また社会と接点をもつ外出の機会にもなり、利用者さんが正当な対価として収入を得る重要な活動でもあります。

一方で沢山の課題も抱えています。私たちスタッフは、送迎・入浴・食事などの日常的なケアを安全に行う事があくまで第一です。それらに更にプラスして、アートやイベントなど非日常の何かを作り出す事にはとても多くのエネルギーや時間が必要となります。安全なケアとクリエイティブな活動を両立させ続ける事は容易ではありません。またはっきりとした正解や成果がなかなか見えにくく、その中で高いモチベーションを維持し難いのも悩みの種です。

分かり易いもの、効率的なもの、すぐに役に立つものばかりが持て囃される世の中ですが、分かりにくく、あやふやで、一見無駄と思える様なものにこそ、豊かさや忘れてはいけない何かがあると思っています。

こうした地道なビー玉アート活動を通じて、私たち“らしさ”を表現し、社会とつながり、新しい出会いや経験のきっかけのひとつになればと思い日々活動に取り組んでいます。



制作風景



はばら歯科(西成区)の待合室で



ビー玉アート

後援会員継続リスト

ご継続ありがとうございました！(敬称略)

◆2019年度 継続
(2019年10月31日～2020年2月15日受付)
常松由起子 岩藤博明 田邊秋子 後秀樹 金本京子 高野郁子 杉本マリ 山口勝蔵 岩本和子 朴君愛 真鍋光子 泉建設(株) 平井毅 神田美穂 仲地弘 工藤ひとみ 原田浩 伊藤真美 神崎真理子 亀井浩司 若松裕子 中野順子 小野幸子 龍昌子 井岡和美 貫野旬子 武内計二 齊藤治 高津由之 進藤多代 上田久子 岩戸美津江 橋田恵美子 八木敏子 勝山欣哉 佐藤裕英 佐藤温子 佐藤由希 三井由利子 瀬戸恵利子 木戸京子 島森きみ子 田代裕美子 中光治 梅本庸子 伊森雅彦 奥津矩男 天野真紀子 友田洋子 村田好範 竹本歯科医院／竹本博文 溝渕啓子 山中美也子 梅本昌彦 斎藤雅子 南部信子 光野濱子 山崎康子 西優子 嶋恭加 加藤ヨーセツ(株)／加藤世理子 西土政利 長田弘子 吉岡建設株式会社 山本裕信 伊藤紘 伊藤佳代 松本興子 川辺美代子 片田正代 桂塩鯛 岡本潤和 五味侑子 山下淑子 大井知子(有) イングス／光安寿三郎 岡田満喜子 菅洋子 楠本智恵 橋田國身

ご支援よろしくお願ひします！(敬称略)

◆2019年度 新規
三浦かおる(株) タニヒコ／谷彦士郎

ご寄付・寄贈いただきました！(敬称略)

◆2019年度 寄付
松坂明子／松坂潤／鈴木盛子／鈴木光／佐藤真代／佐藤彩乃(6名連名＝大船渡・陸前高田の有志の皆様) 大槻瑞文

退会。長年のご支援ありがとうございました！(敬称略)

◆2019年度 退会
永野敏 吉川啓二 仲谷アヤ子 間處史歳 高橋紀代香

会員拡大へご協力を！

日頃より後援会活動へのご協力誠にありがとうございます。

後援会員は発足当初から実に1000人を超え、毎月1万円の寄付を振り込んでいただく会員さん、学生時代の同窓会の幹事をして、その残金を皆さんに了解を得て寄せてくださる方、利用者さんの逝去に伴って寄付されるご家族の方など多くの皆さんのご理解によって活動が支えられています。

しかし、一方で会員の逝去等に伴って全体として会員数は減少傾向にあります。後援会活動の趣旨に賛同いただけるお友達、お知り合いをぜひ紹介ください。

「会員登録がくれそうだけど?」という方がおられましたら、事務局（06-6656-1280）までご一報ください。資料、申込書等送らせていただきます。

会員拡大へぜひご協力をお願い申し上げます。

「ゆうのゆう」後援会の会員を募集しています

重症心身障害者の地域生活を支える活動を支援しようと設立されました。ゆうのゆうの運営を側面から支援するほか、重症心身障害者の現状、社会活動の大切さを広く社会に訴え、社会的支援の実現を図ります。

年会費 1 口	個人会員：3,000 円、法人（団体）会員：10,000 円
振込先	郵便振替口座：00900-4-157766 「夢飛行・モモの家・ゆうのゆう・機関車」後援会
お問合せ先	「ゆうのゆう」後援会事務局まで TEL：06-6656-1280 Eメール：info@yourwing.org

後援会呼びかけ人

犬伏 一人(読売新聞論説委員)	小西 威史(月刊「ソトコト」副編集長)	富田 佳志(朝日新聞編集記者)
羽柴 修(弁護士)	堀内 正美(俳優)	増田 耕一(元毎日新聞東京本社代表)
松本 賢志(時事通信記者)	山沖 之彦(プロ野球解説者)	梁英子【ヤンヨンジャ】(弁護士)

編輯後記

小学3年生の時、職員室に呼び出された。担任から「一体の傷はいつか治るけど、心の傷は一生治らないことがあるの。わかりますか」と真剣な表情で諭すように言われた。

当時、クラスに知的障害の女子がいた。私がその子にアホと言ったという。いつもその子の世話を焼いていた別の女子のことが好きで、からかっただけで「アホ」と言ったのが真相らしい。担任に報告されたらしい。

昨今の「ダイバシテイ」（多様性）と聞くと当時を思い出す。約五十年近くも昔、知的障害児が普通クラスにいたのは、画期的なことだったろう。担任が受け入れを熱望したのだと後に母から聞いた。

今の仕事を選んだのは当時のことが影響しているとは思わないのだが、ビジネス用語としてのダイバシテイが薄っぺらに感じるのはその経験のせいかも知れない。

あの子は今、どうしているのだろう。時々インターネットで検索してみるのが、未だにヒットしない。もちろん、検索するのは知的障害を持つ女の子の名前だけだ。（こ）

ゆうのゆう後援会だより No.27

2020年3月発行

発行人 / 「ゆうのゆう」後援会
〒557-0042 大阪市西成区岸里東1の5の25
TEL：06-6656-1280 Eメール：info@yourwing.org
ホームページ：http://www.yourwing.org

発行人 / 「ゆうのゆう」後援会
 〒557-0042 大阪市西成区岸里東1の5の25
 TEL：06-6656-1280 Eメール：info@yourwing.org
 ホームページ：http://www.yourwing.org

〒557-0042 大阪市西成区岸里東1の5の25
TEL: 06-6656-1280 Eメール: info@yourwing.org
ホームページ: <http://www.yourwing.org>

TEL : 06-6656-1280 Eメール : info@yourwing.org
ホームページ : <http://www.yourwing.org>

ホームページ : <http://www.yourwing.org>